

テーマ：ビジネス日本語教育は何を目指すのか？

-企業の現場と日本語教育現場との連携強化を目指して-

グループディスカッション：ビジネス日本語教育における各自の考える課題を挙げ、協議し、
解決策を生み出し、発表する。

まとめ

グループ1（齋藤仁志・平野貞二・堀井恵子・松本一見）

キーワード「つなげる・つながる」

私たちのグループで出てきた「ビジネス日本語教育の課題」は「インターアクション（活動）に関わるものと「コミュニケーションの課題（ニーズ）」の2つに分けられた。

▶コミュニケーションの課題（ニーズ）

ビジネス日本語において日本語教師は非日本語母語話者（以下「NNS」）・学校（大学等）と企業をつなぐブリッジ人材ともなる。以下、それぞれのコミュニケーションに関わる課題（ニーズ）と解決策について述べる。

（1）日本語教師とNNS、学校（大学）とのコミュニケーションに関する課題

「初級レベルのNNSにビジネス日本語学習の継続を促すには？」という課題については日本語教師がNNSに「Can-do等可視化」して動機付けを促すようなコミュニケーションをとることが解決につながるだろうと思われる。また、「（大学に）日本語のフリースペースを設けてほしい」という日本語教師とNNSに関わるニーズについて日本語教師は学校とコミュニケーションを測る必要があるだろう。

（2）日本語教師と企業とのコミュニケーションに関する課題

「企業をどう大学に呼び込むか」という課題については企業内に「理解者を増やす」と、「ビジネス日本語教師（講師）の役割と限界」という課題についても「仲間づくり」が解決の一步となり、そこから「住み分け」を進めることが問題の解決になる。

（3）NNSと企業とのコミュニケーションに関する課題

世界の状況から見て日本はまだグローバル化しているとはいえない。現在の企業中心社会では、NNSが同化することがよい社会人であると捉えられがちであるが、それは真のグローバル化であるといえるだろうか。

今回出てきた「日本企業に変わる気（真の意味でのグローバル化）があるか？・日本企業でNNSが同化してよいのか？」という課題の解決法は「企業教育（グローバル化）」を

行なうことが解決になりうる。具体的にはNNSに伝わる日本語の使い方や、異文化コミュニケーション等の教育を企業に行なうことで、NNSが同化すること以外の解決策を見出せるだろう。また、「語用論的視点から（NNSと企業側の）コミュニケーションの問題を明らかに（したい）」ということについては、より研究を進めること、更にそれを企業や社会に対しても発信していくことが必要である。そして、この「企業教育」「研究」「発信」はブリッジ人材としての日本語教師が担う重要な役割であるだろう。

▶インターアクション（活動）に関わる課題

「ビジネス日本語とは何か？」という課題（問い）であるが、これはビジネスマナーや就職活動（キャリア教育）で使われる日本語以外に、日本語を使って仕事を遂行していくための「問題発見、解決能力」「協働する力」「異文化調整力」など複数の能力が関わってくる。このような総合的なビジネス日本語能力を育成するためには「教室外活動・プロジェクト活動」を取り入れることが欠かせないだろう。先述の「ビジネス日本語教師（講師）の役割と限界」にも通じるところだが、この活動を取り入れるためにはやはり、「仲間作り」が必要不可欠なものであろう。

▶残された課題

日本語教師は大変忙しいが、企業とのコミュニケーションのためには、日本語教師がさらに開かれた存在となる必要がある。